

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道農業専門学校	昭和51年7月31日	野 英二	〒062-0052 北海道札幌市豊平区月寒東2条14丁目1番34号 (電話) 011-851-8236
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人八幡学園	昭和54年4月26日	桑原 眞人	〒062-0052 北海道札幌市豊平区月寒東2条14丁目1番34号 (電話) 011-851-8236
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士
農業	専門課程	農業科	平成15年文部科学省 認定 0
学科の目的	農業の実習体験を本位とし、農業社会人としての心構え、態度、技能及び知識を養い、将来広く国内外の産業に貢献し、先進的農業を積極的に推進し自らその活動の場を求め切り開いて行く、自耕自拓の精神に富む青年の育成		
認定年月日	平成29年2月28日		
修業年限	昼夜 全課程の修了に必要な 総授業時数は標準的 時間	講義	演習
2 年	107	43	5
生徒総数	生徒数	留学生数(生徒数の内)	専任教員数
70	50	0	10
学期制度	■1学期:4月1日～10月31日 ■2学期:11月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業時数の2/3以上を出席した者について、学年末に行う試験・実習の成果、履修状況を勘案して卒業要件は取得した単位が107単位以上であること
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏 季:8月3日～8月16日 ■冬 季:12月21日～1月10日 ■学年末:3月22日～3月31日	卒業・進級 条件	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生個々の相談指導に対応できるように少人数のゼミ形式の担任制をとっている。	課外活動	■課外活動の種類 クラブ・同好会活動(ホルスタインクラブ・食品加工同好会) ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 農業法人・農業後継・酪農ヘルパーなど ■就職指導内容 キャリア教育等を含めた形で担任・教務担当を中心に学生個々にあわせて指導 ■卒業生数 16 人 ■就職希望者数 15 人 ■就職者数 14 人 ■就職率 93 % ■卒業生に占める就職者の割合 87.5 % ■その他 ・進学者数: 1人 酪農大学 編入者 1名 (令和 3 年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	資格・検定名 種 受験者数 合格者数 家畜人工授精師 ② 9人 9人 アークガス溶接 ③ 11人 11人 車両系建機講習 ③ 9人 9人 家畜商 ③ 6人 6人 フォークリフト講習 ③ 16人 16人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 平成3年4月1日時点において、在学者48名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者47(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 家庭の経済的な問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 全寮制のため学生寮務担当者担任で情報交換をこまめにおこなっている。カウンセラーによる学生相談室を利用できるようにしている	■中退率 2 %	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)		
当該学科の ホームページ URL	http://hakkougakuen.ac.jp		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等に関する注記

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者(就職希望者)をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進路未定者について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

建学以来の物質循環機能を生かした持続的な農業の実践と共に、すでに農業の6次産業化を実践し、実習に取り入れている当校の農場運営の更なる高度化のほか、農業従事者の減少・高齢化に対応するITC農業技術のカリキュラム導入や、農業所得向上につながる高度に管理された施設園芸の推進など、強い農業者育成を図る教育内容に改善していくた

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は教務規程第3条に規定された学外の企業等委員と学校内委員とで構成され、委員長である校長が招集して開催する。委員会は北海道農業専門学校組織図のとおり校長直属の組織であり、学校は現状の教育内容を開示し、委員は教育課程編成委員会規程第2条に定める事項について審議し、企業等との連携に関する基本方針に沿って最新の知見に基づいた提言を行う。校長は、次年度以降の教育課程編成にこれを生かす。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名 前	所 属	任期	種別
沼田 光弘	北海道農業協同組合中央会 営農支援部長	令和3年5月18日～令和5月31日(2年)	①
中村 卓司	農研機構 北海道農業研究センター 水田作研究領域 水田輪作体系G グループ長	令和3年5月18日～令和5月31日(2年)	②
野 英二	酪農学園大学 副学長	令和3年5月18日～令和5月31日(2年)	②
馬場 洋二	北海道農業専門学校 教学部長	令和3年5月18日～令和5月31日(2年)	
馬場 洋二	北海道農業専門学校 教学部長	令和3年5月18日～令和5月31日(2年)	
田 健一郎	北海道農業専門学校 農場部長	令和3年5月18日～令和5月31日(2年)	
川原 章	北海道農業専門学校 総務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年10月27日 13:30～15:00

第2回 令和4年3月24日 13:30～15:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①新規導入授業科目として【食品製造学】【6次産業化・商品開発】【農産物加工実習】等食に係る分野の授業科目を導入。②農場畜舎管理実習期間に実地で学ぶ【演習Ⅰ】を非常勤講師や専門機関等が講師となる形式で導入。③社会人基礎力向上を図る【キャリア形成実習】を導入。これら新規導入するにあたり 委員会にて各委員から助言等をいただきながら 取りまとめ、令和4年度より教育課程見直しの一環として実施している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は実習主体のカリキュラムを組んでいるため、学生が生産実習で学んだ内容の理解をさらに深めさせることを目的とした実習について企業と連携をとり、最新の理論や技術を習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実際に本校の農場で使用しているトラクターのエンジン構造や、GPSを用いた作業技術を授業で扱える企業のほか、本校での飼養管理の分析指導を委託しているコンサルタントと連携し、実習内容を向上させる。またその学修成果の評価も得てカリキュラムの改善も図る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
エンジン・トラクター分解組立	ディーゼルエンジンの分解、組立などの作業を行うことにより、エンジンの構造を理解する。トラクターを分解し、動力の伝達の仕組みを理解する。	日本ニューホランド株式会社 札幌営業所
測量実習	測量理論を理解し、農場を実測する。PC上で作業計画をたてて、そのデータをGPS搭載のトラクターに転送し、GPSガイダンスに沿った操作も体験する。これからの精密農業を理解する切っ掛けとする。	北海道GIS技術研究会
トラクター実習	土壌表面への散布ではなく、土中に注入できる家畜糞尿散布作業機(スラリーインジェクター)の運転・活用方法等について指導をうけトラクター作業機の運転方法の習熟を促していく。	公財 北海道農業公社
作物栽培学(飼料)	飼料作物(デントコーン)の生育状況および収穫適期等についてコンサルティング業務を担ってもらい、その内容状況等を冬期講義内容等と連携させ より深い学びに結び付けていく。	サツラク農業協同組合

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は、就業規則第4条および職員研修規程に基づき、職員の担当分野における実務に関する専門的な知識、技術及び技能を農業試験場、大学等といった研究機関の他、農業関連機関とも連携して専門分野の最新の技術や動向を取り入れられるようにする。さらに役職や講義の受け持ちの程度に応じて規程の区分に従い、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上させることを目的とした、指導力の習得・向上の研修を北海道専修学校各種学校連合会や農協などといった機関とも連携して、組織的かつ計画的に行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ASIAGAP指導員基礎差分研修」(連携企業等: 日本GAP協会)

期間: 令和3年11月) 対象: 農場部 園芸グループ 科長

内容: GAP指導員研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「オンライン これからの学びの場」(連携企業等: 北大高等教育研修センター)

期間: 令和4年2月 対象: 農場部 園芸グループ 科長

内容: 学生等へのキャリア教育等のサポートを担う キャリサポート養成講座

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

機能性食品開発セミナー オンライン開催 対象 科長・主任・専門員

② 指導力の修得・向上のための研修等

指導力強化研修 オンライン開催 対象 科長・主任・専門員
地域の農業経営者育成を担う指導・支援従事者向けの指導力強化研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の農業の担い手育成を第一とした教育活動が、学校運営状況が健全であって、教職員の資質向上に向けた取り組みが組織的且つ効果的であるかについて自己評価をし、その結果に基づき生徒保護者や学校関係者による評価を行う。評価を基に学校運営の改善のための必要な措置を講じ、教育水準の向上に努めて、その結果を公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ① 学生に対し「入学時」および「卒業時」に、資格取得状況調査を実施することで受験者数の年次変動が有ることを簡単に説明できることとなる。との意見を踏まえ 学内企画委員会にて討議しHP等へ資格取得状況の掲載決定した。
- ② 職員に対して、経験年数に応じた推奨資格取得例を提示することで、キャリアアップの目標が設定できモチベーションを高めることができるのではないかと。との意見に対し教員の資格取得支援制度等を確立させていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月30日現在

名前	所属	任期	種別
坂爪 浩史	北海道大学 大学院 農学研究員	令和4年5月31日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
鈴木 卓	北海道大学 大学院 農学研究員	令和4年5月31日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
山田 秀人	一般財団法人 北海道農業協同組合学校	令和4年5月31日～令和6年3月31日(2年)	高校等委員
小倉 清爾	八紘学園 北海道農業専門学校 同窓会長	令和4年5月31日～令和6年3月31日(2年)	卒業生委員
北島 亜寿香	在校生保護者 農業者	令和4年5月31日～令和6年3月31日(2年)	保護者委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.hakkougakuen.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供は、専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインを踏まえ、学校ホームページおよび学校案内の冊子を用いて教育活動その他の学校運営の状況を定期的に公開することにより、企業等の学校関係者との連携の推進や、受験希望者および保護者への正確な情報提供を行っていく。また、各部門の業務に関わる企業等の主催する事業

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)専攻各科の教育内容（農業の1学科のみであるため）
(3)教職員	(3)教職員（専任・非常勤）
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援（学生寮）
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://hakkougakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

(専門課程農業学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			農業政策	・ 他産業と農業の歴史的発展の過程 ・ 日本農業と国際事情 ・ 当面の農業問題の所在と発展方向	1・2	20	1	○			○				○
2	○			農業実践論	農業実践者の事例紹介	1・2	20	1	○			○				○
3	○			農業経営学	・ わが国の農業経営の特質 ・ 農業経営の目標 ・ 生産性について	2・2	20	1	○			○				○
4	○			土壌学	・ 土壌の種類と性質 ・ 土壌の性質と生産力	1・2	20	1	○			○				○
5	○			作物学	・ 普通作物の形態と機能、栄養と生理 成長と发育、環境 ・ 栽培技術	1・2	20	1	○			○				○
6	○			園芸学	・ 園芸作物の種類を特色 ・ 栽培管理とその問題点	1・2	20	1	○			○				○
7	○			畜産学Ⅰ	・ 日 本 の 畜 産 概 況 ・ 主要畜産物の生産要因 ・ 乳牛の改良と登録 ・ 乳牛の飼養管理法	1・2	20	1	○			○		○		
8	○			農業機械Ⅰ	・ トラクターの特徴、分類及び性質 ・ 各部機能と構造、保守管理 ・ 経済性	1・2	20	1	○			○				○
9	○			食品製造学	・ 牛乳の組成と成分物理的性質 ・ 主な製品と加工法 ・ 肉の性状、処理、貯蔵及び加工法	1・2	20	1	○			○		○		
10	○			家畜健康管理学	・ 消化器系、呼吸器系、循環器系統の疾病 ・ 伝染病、寄生虫病	1・2	20	1	○			○				○
11	○			農業機械Ⅱ	・ 農業機械の発達史 ・ 各種作業機の原理 ・ 農業機械化の現状	1・2	20	1	○			○		○		
12	○			実習講義	・ 各科における実習上の基礎知識	1・2	100	5	○			○		○		
13		○		応用昆虫学	・ 昆虫の分類 ・ 被害の実態と分類 ・ 発生予察、防除法	1・2	20	1	○			○				○
14		○		農業気象学	・ 気象概論 ・ 気象要素と作物・動物 ・ 施設と環境制御 ・ 農業気象災害	1・2	20	1	○			○				○
15		○		植物病理学	・ 植物病理の概論 ・ 病原の分類と病徴 ・ 主な病害例とその病除法	1・2	20	1	○			○				○

16	○	英会話 I	・場面を想定した会話練習	1 ・ 2	20	1	○			○		○	
17	○	マーケティング論	・マーケティング（農産物等） 基礎・戦略・重要性についての理解	1 ・ 2	20	1	○			○		○	
18	○	情報処理	・ワード、エクセル、パワーポイントの操作と活用	1 ・ 2	20	1		○		○		○	
19	○	作物栽培学 （飼料）（畑作）	・農業の発達史 農学と農業 ・栽培の概況と技術 ・栽培の概況と技術	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
20	○	花き園芸	・草花園芸の利用 ・草花生理と育苗技術及び繁殖技術 ・育苗生産と経営	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
21	○	果樹園芸	・果樹園芸の変遷と現況 ・果樹の種類と分類 ・果樹の生育と環境、管理 ・りんごの特性	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
22	○	野菜園芸	・栽培管理の要点 ・果菜類、葉茎菜類、根菜類の栽培	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
23	○	組織培養学	・生長点培養（無病苗）の技術	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
24	○	家畜飼養学	・家畜に対する環境の影響 ・畜舎等畜産施設の種類と特性 ・一般的家畜飼養管理法	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
25	○	家畜繁殖学 I	・生殖器の構造 ・繁殖と泌乳に関係の深い各種ホルモンの生理作用 ・人工授精、受精卵移植 ・繁殖障害	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
26	○	家畜栄養学	・家畜の消化と吸収 ・飼料の種類と特性、配合と給与 ・飼養標準	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
27	○	畜産学 II	・家畜の主要品種と特徴 ・日本の畜産概況 ・主要畜産物の生産要因 ・肉牛・中小家畜の改良と登録	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
28	○	家畜の育種	・形質遺伝、体型と泌乳能力、肉牛の選抜、乳牛の交配方法、肉牛の交配方法 ・肉牛の能力検定、血統登録、世界の乳牛改良	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
29	○	家畜の繁殖学 II	・雄牛の生殖器・精子の形態と構造 ・発情の徴候と発情に及ぼす BCS の影響 精子及び卵子の生存性と受精能力授精適期と受胎率	2 ・ 2	30	1	○			○		○	
30	○	6次産業化商品開発	・6次産業化における商品の企画・買う初と販売までの実際の流れを理解する	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
31	○	測量学	・トランシット、レベル測量 ・多角測量・水準測量・求積測量	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
32	○	農業簿記学	・農業簿記の種類と原理 ・農業資産、負債の分類と利用設定 ・取引仕訳の記入方法 ・試算表の作成と決算手続き	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
33	○	経営分析	・事業計画とPDCAサイクル ・労務管理と人造り ・固定資産投資の考え方 ・簡易的な財務分析	2 ・ 2	20	1	○			○		○	

34	○	作物栄養学	・栄養成分の体内での代謝 ・肥料の分類と特性 ・施肥法	2 ・ 2	20	1	○			○			○	
35	○	農業ICT概論	空間情報の収集、解析、表示、公開手法の基礎を学ぶ。授業は、GIS（地理情報システム）、リモートセンシング（遠隔探査）、ドローン、GPSなど	2 ・ 2	20	1	○			○			○	
36	○	農業機械整備	・エンジン、オイルなどの交換・タイヤ組み替え方、パンク修理の仕方 ・電気系統のトラブルの対応と直し方 ・ロータリーの刃の交換小型エンジン、2サイクルエンジンのメンテナンス	2 ・ 2	20	1	○			○		○		
37	○	英会話Ⅱ	・場面を想定した会話練習	2 ・ 2	20	1	○			○			○	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	28 週

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。